

8月19日・20日

宵宮

宮上り

にいつ屋台まつり公式パンフ

にいつの 祭屋台

夏祭り、
今宵新津は燃えあがる。



新津総鎮守 堀出神社

歴史と見どころ



鎌倉時代の初頭、凡そ今から800年前天福の頃、新津氏初代新津越前守信資公(中世の武士は、住む地名を姓に使用)の父親、金津蔵人資義公が金津城築城の際(地中から男女の神像を得て城内に伊邪那岐、伊邪那美尊としてお祀りし、堀出大神と奉称したといわれています。これが堀出神社の創祀となります。) 本家である金津氏が何かの都合で金津を去る時、その所領と堀出大神の御神体を分家である新津氏が受継ぎ、第15代新津城城主新津丹波守勝資公が天正元年、新津城城外に御社殿を建立し、奉遷して、新津郷の守護神として祀られ以降今日に至るまで堀出様として住民に崇敬され親しまれております。



御神輿





一之町 (いちのちょう)

歴史と見どころ

一之町屋台は、江戸期安政年間の建造で、新津では一番古い屋台です。京都で彫られたという波しぶきの彫刻と、見送りの二本の角を持つ亀の彫り物は、見応えがあります。

二階の飾り人形は「稲神様」と呼ばれていますが、町内神明宮の祭神、見送りの亀との関係から「白髭（猿田彦）」と推察されます。

荘厳華麗なる当屋台の運行を寄せ離しの迫力と、哀愁を帯びた流し離しと共に楽しみください。



↓見送り

↑半纏



一之町屋台

建造：安政3年（1856）
慶応年間（1865～1868）に新発田からお宝様：稲神様
見送り：亀
大きさ：全長4299×全幅2433×全高5420mm
運営団体：一之町有志（新潟市秋葉区新津本町4丁目）



二之町 (にのちょう)

歴史と見どころ

二之町屋台は江戸時代末期に建造され安政年間に村上、岩船地域から購入されたと言われています。修復は過去に何度か加えられていますが、その年代・回数とも不明であります。購入当時二階にあったとされる大黒天の飾り人形は残念ながら水害にて消失していますが、一層の飾り柱四本と須佐之男命の見送りおよび他の彫刻部は建造当時から現存しています。

堀出神社例御大祭の御膝元の町内屋台として、全町内屋台一・二を争う格式と歴史を誇るこの屋台に私達二之町有志は敬意と誇りをもち祭礼に参加いたしております。

屋台祭りフィナーレを飾る宮上りにおいて二之町町内で行われる全町内屋台7台一斉煽りを是非ご覧ください。



↓見送り

↑半纏



二之町屋台

建造：江戸時代末期（1800年代）
安政年間（1854～1860）に岩船か村上からお宝様：大黒天様（水害で消失）
見送り：須佐之男命
大きさ：全長6100×全幅2400×全高4540mm
運営団体：二之町有志（新潟市秋葉区新津本町3丁目2区）



三之町

(さんのちょう)

歴史と見どころ

明治13年に新津大火で消失した屋台を昭和25年に再建。総樺作り、漆塗りに金箔を施し、お宝様は恵比寿様で、町内の繁栄、安心、安全の護り神となっています。再建以来一度も休む事なく現在の屋台まつりを先導継続している事も自慢です。

一番小さな町内ながら女性の参加も多く、20日夜9時～11時の終了まで、栄町神楽を交えた7台の屋台の勇壮さが、我が町内でご覧いただけます。



↓見送り

↑半纏



三之町屋台

建造：昭和25年（大工は阿部徳蔵）
 先代は安政4年に建造し明治13年に焼失
 お宝様：恵比須様
 見送り：波に鯛
 大きさ：全長4800×全幅2800×全高5300mm
 運営団体：中堅会（新潟市秋葉区新津本町3丁目3区）



四之町

(しのちょう)

歴史と見どころ

現在の新津本町2丁目1区はその昔、四之町と呼ばれていました。また、四之町の祭り屋台は四番組屋台と言われ、現在の屋台は昭和49年に完成しました。

他町内が豪華絢爛な屋台を建造したことを機に、当時の若手有志が「オレたちも新しい屋台を作ろう」と一念発起。昭和45年から3年間、寄付集めに奔走しました。当時で2000万円近い浄財をいただき、現在の屋台を造った当時の決断が、今の四之町に大きな活力を与えてくれているのであります。

屋台2階には七福神の一神、「弁財天」を載っており、立ち並ぶ商店街の繁栄を祈念したものであります。

建造から40年。これまでお祭りに携わってきた大勢の思い出、汗や手の跡、足袋の跡、そして涙が、四番組屋台に染み込んでいます。伝統を受け継ぎ、新たな歴史を作ろうとしている四之町並びに四番組屋台を今後ともよろしく願い申し上げます。



↓見送り

↑半纏



四之町屋台

建造：昭和49年
 お宝様：弁財天様
 見送り：昇り龍
 大きさ：全長6000×全幅2700×全高4700mm
 運営団体：四番組（新潟市秋葉区新津本町2丁目1区）



停車場通り

(ていしゃばどおり)

歴史と見どころ

停車場通りという呼名は、新津駅前にある町内という所から、昔のままにしてあります。

和友会も屋台が作られたときより活動を始め今や町内にとってもかけがえのない存在となっています。

停車場通りは

人の和、結束力、を大事にし

祭り本番には大勢の引手を集め

圧倒的な迫力で常に一番輝く

町内であると自負しています。



↓見送り

↑半纏



停車場屋台

建造：昭和48年
お宝様：毘沙門天様（制作計画中）
見送り：鳳凰
大きさ：全長5800×全幅2800×全高5000mm
運営団体：和友会（新潟市秋葉区新津本町1丁目）



上善道町

(かみぜんどうちょう)

歴史と見どころ

毎年8月19、20日の祭り当日、各町内を引き廻す屋台は総檜造、漆塗りに金箔を施した豪華絢爛なものとなっております。

屋台二階には未来を予見できることから、福と富をもたらすとされている布袋様がお宝様として鎮座しております。また、見送りには親子獅子が。これは法被にも背負っており、屋台と引手が一体となり、強い絆で結ばれ勇壮かつ強く逞しく生きる様を表現しております。この親子獅子のように老若男女一致結束して、一年を通して祭りに向け活動が続けております。

善友会、新津夏祭り万歳。



↓見送り

↑半纏



上善道町屋台

建造：昭和52年
お宝様：布袋様
見送り：親子唐獅子牡丹
大きさ：全長5800×全幅2500×全高5000mm
運営団体：善友会（新潟市秋葉区新津本町2丁目2区）



新町 (しんまち)

歴史と見どころ

現在の屋台は、昭和50年に造られました。新町屋台には学問の神様である菅原道真公「天神様」を祀っており、これは新町の子供達の学業成就を祈願しております。そして見送りには町内安全を守る「龍」白木の「龍の籠彫」が町内を見守っています。屋台まつりは新町の町内全体が一つになります。そして自分達が育ってきた祭りを子供達に受け継ぎたいと努めています。

また、戦前の新町暁進会は大正10年頃作られ、以後、昭和33年まで屋台まつりに参加していましたが活動を休止。14年間のブランクを経て昭和49年に復活。再度、現在の新町暁進会が発足しました。先輩方の教えを守り奉仕の精神で地域活動を展開しています。



↓見送り

↑半纏



新町屋台

建造: 昭和50年
大工は奥村吉松(新生工業) 先代は～昭和34年に組立不能現存せず
また先々代もあった…
お宝様: 天神様(彫刻師は井波の吉田信久)
見送り: 龍
大きさ: 全長5700×全幅2725×全高4920mm
運営団体: 新町暁進会(新潟市秋葉区新町)

栄町 (さかえまち)

歴史と見どころ

堀出神社の門前町の栄町では屋台ではなく、神楽として参加しています。そして、にいつ屋台まつりでは各町内各戸のお祓いをしております。

還御祭では御神輿様の先導役としての役割を担い、神様に長く町内に留まってもらうため時間稼ぎをする屋台を治め、安全に本殿へお帰りになる迄、御見送りをします。

歴史は衰退と再興を繰り返しているため正確な資料はないものの、現在子供用として活躍している獅子頭が一番古いもので、天保7(1836)年に作成されたものと伝わっております。

伝統を大切にしたいと、地元の皆さんに楽しんで頂ける神楽を目指しています。



↑半纏



栄町神楽

製作: 昭和61年(彫刻師は井波の吉田信久)
運営団体: 栄町神楽有志
(新潟市秋葉区新津本町3丁目1区)

万灯神輿 (まんとうみこし)

育成会 (いくせいかい)



昭和61年、旧新津市街地の若者に新津夏祭りへの参加を呼びかけ会員40名で「秋葉睦会」を発会しました。そして、その年の例大祭に参加し夏祭りを大いに盛り上げました。



その後、新潟祭り・長岡祭りをはじめ県内外の祭りに参加し各地との友好を深めてきました。今では新潟江戸神輿連合会の力を借りながら現在に至っております。

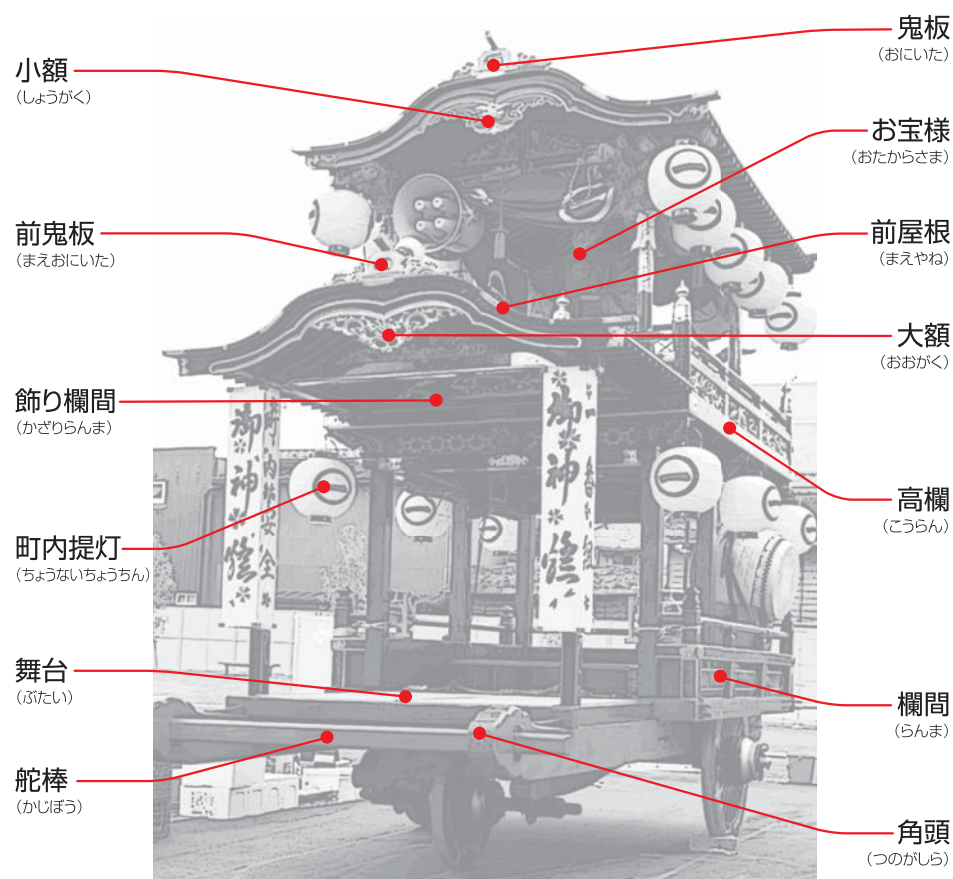


昭和55年、「障害児者も健常児者も共に生きる地域社会」の足掛かりになればと、「手をつなごう愛の大運動会」を開催しました。

その時に祭気分を味わおうと手作りの神輿を担ぎ、会場中を満面の笑顔で練り歩き胸に熱いものが込み上げてきたのは、忘れません。打ち上げで誰ともなく「今度、ほんとの祭りに出て見てえなあ」という声がかきかけで63年の大祭から参加しています。今では宵宮巡行の際、声を掛けて頂くと市民権を得たようで明日への活力となっております。



にいつ屋台まつりの歴史と屋台各部所の名称



にいつ屋台まつりの歴史

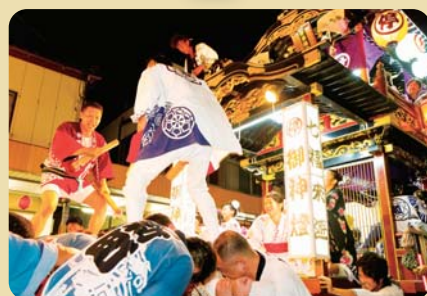
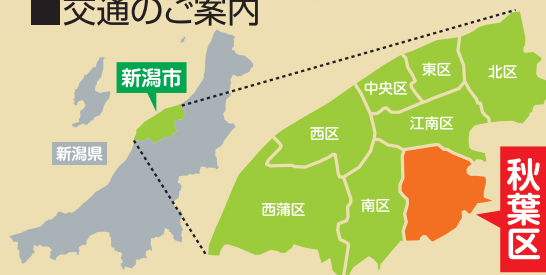
安土桃山時代初期の天正元(1573)年、下山谷、盾之腰に有る新津城を建替えられた折、城の守護神である堀出大神は城外に遷座し、領内の産土神(うぶすながみ)として祀られました。

新津氏第15代新津丹波守勝資公がそれを祝うとともに、地域の発展と振興を祈り、文化的行事として静かで雅な京風の祭の屋台と祭囃子を伝えましたが、以来江戸時代末期、特に明治に入ってから石油の噴出と地域の繁栄と共に祭り自体が江戸風の元気の良い祭りに変化して現在に至っています。

8月20日宮上り 《見どころポイント(運行時刻)》



交通のご案内



新津松坂流し

安土桃山時代に伊勢松坂から伝わったとされ、編み笠を被って流す踊りの優美さ、優雅さには定評があります。また、「新津松坂流し」は、日本三大流しの一つに数えられており、8月16日は例年新津地域内外から約1,400名の踊り手が参加し、本町目抜き通りを流し盛り上がります。



〔発行〕新津観光協会

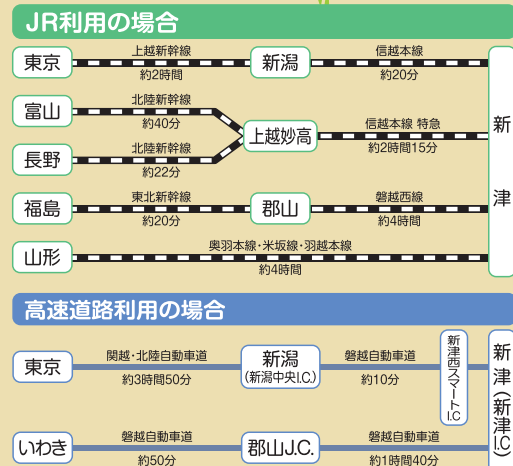
〒956-0864

新潟市秋葉区新津本町3丁目1-7 (新津商工会議所内)

〔TEL/FAX〕0250-24-3777

〔E-mail〕n-kankou@fsinet.or.jp

〔URL〕http://www.niitsu.or.jp/~n-kankou/



- 富山から [北陸自動車道経由] 約260km
- 長野から [上信越・北陸自動車道経由] 約230km
- 福島から [東北・磐越自動車道経由] 約200km
- 山形から [R348、287、113、7、290号線経由] 約160km